

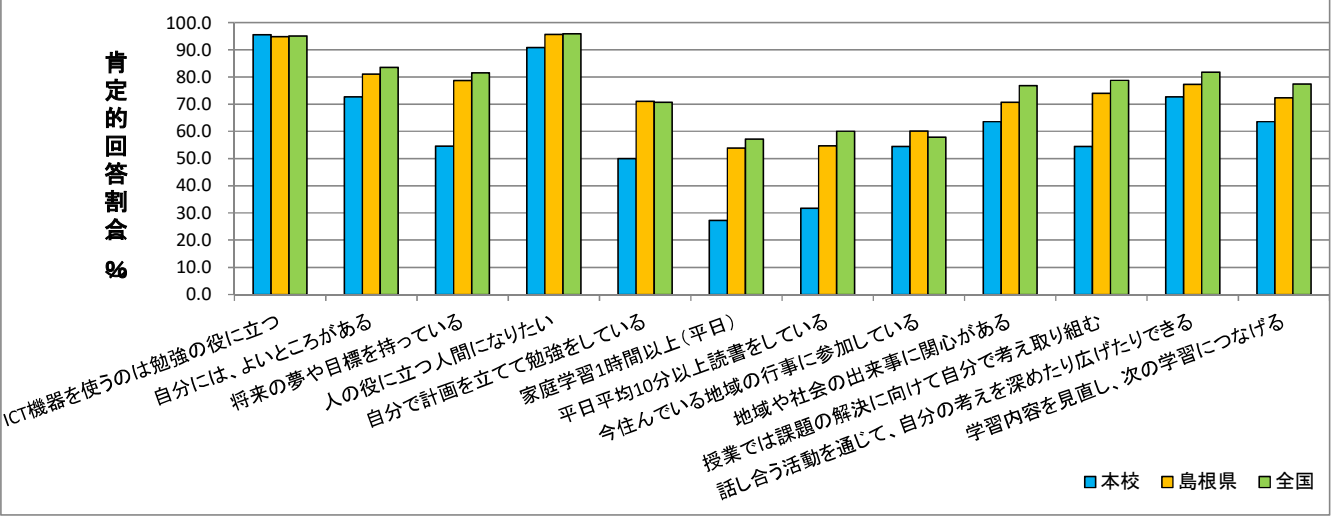
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○ものごとの原因と結果について、文章から読み取ることができた。 ○自分などどのようにするかを記述で解答することができた。 ●資料が複数ある時の、情報の関連付けに課題があった。 ●題材文から第三者が読み取ったことを汲み取って解答することに課題があった。	・長い文章を読むことの抵抗感を減らすために、読み聞かせを行ったり、授業における学校図書館の活用を増やしたりしながら読書活動をする。 ・ノートや成果物など、互いが書いたものを見せ合い、他者はどんなことを考えるのか等を知る機会をとる。
算数	○基礎的な四則計算ができた。 ●必要な立式が2・3段階ある場合の問題解決に課題があった。	・「こうしたら○○になる。」とイメージしながら考える力をつけるために、折り紙やブロックなど具体物を使った活動を低学年のうちからしっかりと経験させる。

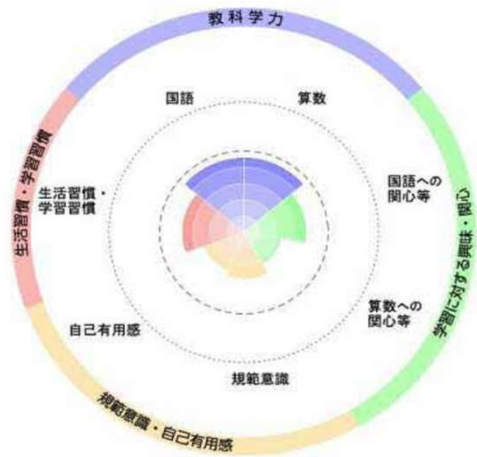
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○ICT機器を使用することに前向きである。 ●読書の習慣および家庭学習の習慣に課題がある。	・学校からの便りで読書や家庭学習についての啓発をすることで学校と家庭の連携を図り、児童へも積極的に声がけをする。 ・互いの自主学習ノートの取組の様子が分かるようにすることで、家庭学習への意欲が持てるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「つかむ・考える・広げる・深める」を意識した授業づくりについて、教職員で共通理解を図り、日々の授業づくりの改善に努める。
・職員会議で研究授業について検討したり、授業公開をしたりするなど互いの実践などから学び合う機会を設定する。

【受検者数】
22 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。